

図-3 提案するいすみ鉄道の指標

実態調査を踏まえて設定した指標が図－3となる。
感染症対策，着席可否など多くの視点で説明した。

4. 2 アンケート調査に関して

本研究では，インターネットを用いて閲覧することを想定し，いすみ鉄道公式 SNS を用いてアンケートを掲載し，閲覧者にアンケートを行った。

表－2 アンケート調査実施概要

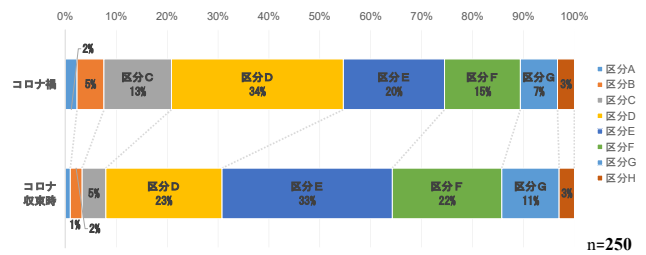
項目	内容
目的	鉄道車内の混雑に対して具体的に気になる基準、観点を明らかにする
調査日時	令和3年01月06日～20日
調査対象	いすみ鉄道株式会社公式SNS閲覧者
調査方法	アンケート調査 (URLからGoogleフォームで回答)
対象地域	全国
サンプル数	250
質問事項	1、属性に関する質問 2、新型コロナ流行前後にける混雑認識 3、混雑に関して気になる観点、抵抗を感じる混雑状況

アンケートは2部構成とし，1部では，図－4を提示したうえで2020年の新型コロナウイルス流行による混雑認識の影響について，2部では図－3を提示したうえで利用する立場で重視する項目の回答を，それぞれ依頼した。

状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
イメージ図								
車内の状況	周囲の乗客を気にせずゆったりと過ごせます	空席のうち中央から外側に座ります 座ります	1席分の距離確保ができます	空席1席分の座席が確保されます	着席は難しく、距離保持は乗客の配慮が必要	着席者の目の前に立席者が現れます	立席を強いられ、車窓を覗く状況ではありません	
新型コロナ感染リスク 2名以上の会話、くしゃみ	安心して会話ができます 飛沫、くしゃみ直撃する恐れを回避			隣や立席者からの飛沫、くしゃみに注意		乗客の飛沫、くしゃみ直撃に警戒		
着席間隔	2席分以上の間隔あり		1席分の間隔あり		間隔なし			
立席状況	ほぼ立席なし ゆったりと立てます		ボックス座など、着席に抵抗を感じる場合は立席が生じます		立席少数 ゆったりと立つことができます		立席多数 立席者と触れ合うほどの間隔がありません	
	A	B	C	D	E	F	G	H

図－4 アンケートに用いる指標と区分分け

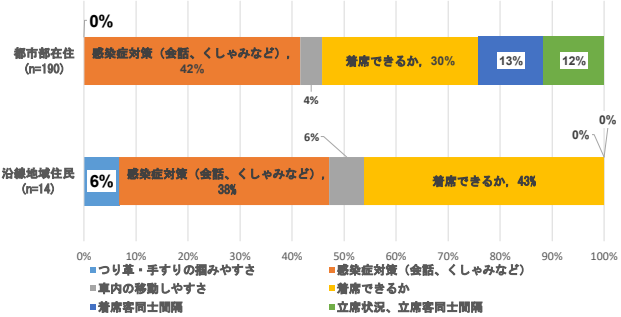
4. 3 アンケート調査結果



図－5 コロナ禍による快適さの水準の違い

図－5から，コロナ禍では，回答の約半数が区分Aから区分Dまでを快適とし，状況③での快適さを求めている。周囲の人と距離をとることを遵守して1席分の距離を保ちたいと重視していることがわかった。

コロナ収束時ではコロナ禍に比べて区分E，Fまでを快適としている。④，⑤の状況で人と距離を詰めても快適さがあると認識していることがわかった。



図－6 重視する項目の違い

図－6から，観光目的で利用する都市部在住者および日常の移動目的で利用する沿線地域住民の両者ともに感染症対策と着席できるかを重視している。重視する項目と考察を以下で示す（表－3参照）

表－3 情報の項目と考察

対象者	重視する項目	考察
全地域	感染症対策 (会話、くしゃみ、せき)	新型コロナウイルスに関わらず、予めからくしゃみ、せきをする人からは避けたいと重視している。
	着席できるか	概ね30分以上車内に留まるため、車内では座って過ごしたいと重視している。

加えて，都市部在住者で着目しているのが着席および立席時の客同士の間隔である。地方鉄道の沿線地域在住者は都市部在住者と比べて独自で着目する項目がつつり革・手すりを掴めるかであった。対象者を比べて重視する項目と考察を以下で示す（表－4参照）。

表－4 情報の項目の着眼点と考察

対象者	独自の着眼点	考察
都市部在住 (来訪目的)	着席・立席客同士間隔	日常で経験する都市部のラッシュ時の隣の利用客と触れ合うほどの窮屈さを避けたい
地方鉄道 沿線在住 (日常移動目的)	手すり・つつり革の掴みやすさ	地方鉄道の車内では大きく揺れること。手すり・つつり革が掴めるかにより揺れに対処できる。

5. おわりに

本研究ではいすみ鉄道の利用状況，コロナ禍による混雑認識の影響，混雑情報のどの観点を有用としているかを明らかにした。結果，感染症対策と着席できるかを重点に着目していることから，この2点の観点から指標を構築することが望ましいといえる。

今後の課題として，区分した車内の状況を乗車人数に反映させるかが挙げられる。

謝辞：本研究において，打ち合わせ，アンケート調査の場を提供して頂きたいすみ鉄道株式会社社員一同様，調査にご協力頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 水野隆二：路面電車における混雑予報 Web サイトによる情報提供システムの開発，日本大学理工学部，社会交通工学科平成19年度卒業論文。